

# 聴覚障害学生のエイズに対する意識と知識

及川 力 (聴覚部一般教育等)  
高橋 昌巳 (視覚部鍼灸学科)

**要 旨:** 筑波技術短期大学聴覚部に在学する聴覚障害学生 (139人) に対し、今後のエイズ教育のあり方を検討するためエイズに対する意識や知識について質問紙調査を行った。

1. 中学や高校で92%, 本学での受講を含めるとほぼ全員がエイズ教育を受けていたが、なおエイズ教育を受けたいとする者が7割以上に達した。
2. エイズに対しては「病気の一つであり、自分が注意していれば恐くない」というイメージが「恐ろしい」イメージをわずかながら上回った。
3. エイズ感染者のプライバシーを守ることは非常にむずかしいと考えていることがあきらかとなった。
4. 知識に関する20項目の質問に対する平均正答率は約62%で男女間に差はなかった。

**キーワード:** 聴覚障害, 大学生, エイズ, 意識, 知識

## 1. はじめに

日本のエイズ患者・感染者は輸入血液製剤による、いわゆる薬害エイズ患者・感染者が非常に多いことがよく知られているが、一方、2.0代青年男女を中心とする異性間性交渉による感染者の増加が最近の特徴である。

エイズにはいまだ有効な治療法がなく、感染してしまうと発病、死亡する危険が非常に高いので、感染しないよう予防するための教育が重要であるとされている。

著者らは聴覚障害学生に対してもエイズ教育の必要性を感じ、二年前から90分の講義2回という極めて不十分な時間ながらエイズ教育を実施してきた。

3年目の今年、今後のエイズ教育のあり方を検討するため、改めて学生のエイズに対する意識と知識の実態を探ったので、その結果を報告する。

## 2. 方法

調査は1995年11月に質問紙法により行った。

対象は、年齢18~22歳の筑波技術短期大学聴覚部に在学中の学生のうち、保健体育科目を受講している149名とした。このうち男子101名、女子38名から回答があった(回収率93.3%)。

調査項目はエイズの意識に関する項目34項目、知識に関する項目20項目で、今回はこのうちの一部について報告する。

## 3. 結果及び考察

### 3.1 エイズに関する意識

#### 3.1.1 エイズに関する情報源と教育の有無

エイズに関する情報はテレビ、新聞や雑誌などのマスコミを通じて得ている者が6割を越えており、学校の先生からとする者は10数%にとどまった。

また、エイズ教育に関してはほぼ100%の学生が受講していた。これを中学・高校での受講状況に絞って見ると、何らかの形で教育を受けた学生の割合は92.1%で、とりわけ高校でエイズ教育を受けている者がほとんどであった。

表1 エイズに関する情報源と教育の有無 (括弧内は%)

No	質問項目およびその内容	全 (N=139)	男 (N=101)	女 (N=38)
1.	エイズについて知ったのは、何からですか			
1	友人(知り合い)	2 (1.4)	2 (2.0)	0 (0.0)
2	マスコミ	85 (61.2)	60 (59.4)	25 (65.8)
3	講師	5 (3.6)	4 (4.0)	1 (2.6)
4	学校の先生	17 (12.2)	12 (11.9)	5 (13.2)
5	何からか忘れた	30 (21.6)	23 (22.8)	7 (18.4)
2.	エイズに関するマスコミからの知識は同からですか			
1	テレビ	23 (27.1)	15 (24.6)	8 (33.3)
2	新聞	30 (35.3)	21 (34.4)	9 (37.5)
3	雑誌	31 (36.5)	25 (41.0)	6 (25.0)
4	図書	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
5	その他	1 (1.2)	0 (0.0)	1 (4.2)
3.	エイズに関する教育を受けたことがありますか			
1	ある	138 (98.6)	99 (98.0)	37 (100.0)
2	ない	2 (1.4)	2 (2.0)	0 (0.0)
4.	エイズ教育を受けてどんな印象を受けましたか			
1	エイズがそれほど恐ろしくなくなった	23 (17.0)	16 (16.3)	7 (18.9)
2	前よりエイズが強くなった	13 (9.6)	11 (11.2)	2 (5.4)
3	エイズに関して関心が高まった	71 (52.6)	49 (50.0)	22 (59.5)
4	性に関する知識を得た	21 (15.8)	15 (15.3)	6 (16.2)
5	性の神秘さを感じた	3 (2.2)	3 (3.1)	0 (0.0)
6	不潔な感じがした	2 (1.5)	2 (2.0)	0 (0.0)
7	その他	2 (1.5)	2 (2.0)	0 (0.0)
5.	エイズに関する教育を受けたいと思いますか			
1	受けたい	18 (13.0)	11 (11.0)	7 (18.4)
2	ぜひ受けたい	13 (9.4)	9 (9.0)	4 (10.5)
3	機会があれば再度受けたい	69 (60.0)	51 (51.0)	18 (47.4)
4	受けたくない	3 (2.2)	3 (3.0)	0 (0.0)
5	どちらでもよい	35 (25.4)	26 (26.0)	9 (23.7)
6.	現在あなたがエイズに関して最も関心のあることはなんですか			
1	自分や家族がエイズに感染しないかどうか			
	ということ	6 (4.3)	5 (5.0)	1 (2.6)
2	エイズの治療法	31 (22.3)	28 (25.7)	5 (13.2)
3	エイズの予防法	8 (5.8)	7 (6.9)	1 (2.6)
4	エイズの予防のための日常生活上の注意	28 (20.1)	20 (19.8)	8 (21.1)
5	患者、感染者のプライバシー	11 (7.9)	7 (6.9)	4 (10.5)
6	エイズという病気に関する正確な情報	14 (10.1)	5 (5.0)	9 (23.7)
7	エイズの研究の進み具合	21 (15.1)	16 (15.8)	5 (13.2)
8	その他	20 (14.4)	15 (14.9)	5 (13.2)

エイズ教育の結果、「エイズに対して関心が高まった」「それほど恐ろしくなくなった」「性に関する知識を得た」などの回答が85.2%を占め、学生がエイズ教育を肯定的にとらえていることがわかった。

また、エイズ教育の再履修については「受けたくない」2%に対し、希望する者が7割を越えていた。

エイズに関しての関心事では男性は治療法、予防のための日常生活上の注意、研究の進み具合などに関心が高く、女性は正確な情報、予防のための日常生活上の注意などに関心が向けられていた。しかし、女性で第一位の「正確な情報」に対して男性は5%しか関心を示さず、男性で第一位の「治療法」に対して女性は半分程度の関心しか興味を示さなかったことは興味深い。

### 3. 1. 2 エイズ感染の危機感と恐怖感

「今より患者が増え、大規模な世界的流行になる」「5年くらいは増え続ける」合わせて62.5%の学生がエイズはまだしばらく拡大することを予想していた。

自身の感染については、「絶対にかからない」確信を持っている者約6%に対して、約7倍の学生が「状況によっては、やがてはかかってしまう」と考えていた。

また、エイズに対しては「病気の一つであり、自分が注意していれば恐くない」という回答が最も多く全体の50%を占め、次いで「とても怖い」「何となく怖い」という『恐ろしい』イメージが続いた。

表2 エイズ感染の危機感と恐怖感

No	質問項目およびその内容	全 (N=139)	男 (N=101)	女 (N=38)
7.	あなたは、今後エイズ患者が増えると思いますか			
1	今より患者が増え、大規模な世界的流行になると思う	28 (20.1)	21 (20.8)	7 (18.4)
2	少なくとも5年くらいは増え続けると思う	59 (42.4)	44 (43.6)	15 (39.5)
3	予防や治療法の開発により数年内に流行は止まると思う	33 (23.7)	22 (21.8)	11 (28.9)
4	患者の増加は地域的に限られ、1~2年以内におさまる	2 (1.4)	2 (2.0)	0 (0.0)
5	わからない/なんともいえない	17 (12.2)	12 (11.9)	5 (13.2)
8.	あなたは将来、自分がエイズウイルスに感染すると思いますか			
1	絶対にかからないと思う	8 (5.8)	7 (6.9)	1 (2.6)
2	多分かからないと思う	46 (33.1)	33 (32.7)	13 (34.2)
3	感染者数の増加などの状況によってはかかるかも知れない	53 (38.1)	36 (35.6)	17 (44.7)
4	やがてはかかるとおもう	5 (3.6)	5 (5.0)	0 (0.0)
5	なんともいえない	27 (19.4)	20 (19.8)	7 (18.4)
9.	エイズという病気について、どんなイメージを持っていますか			
1	とても恐ろしい	37 (26.6)	30 (29.7)	7 (18.4)
2	何となく恐ろしい	30 (21.6)	19 (18.8)	11 (28.9)
3	性病の一つで、自分が注意していれば恐くない	70 (50.4)	50 (49.5)	20 (52.6)
4	わからない	2 (1.4)	2 (2.0)	0 (0.0)

### 3. 1. 3 エイズ検査への対応

抗体検査を積極的に受けたいとする割合は全体の2割強にとどまったが、女性のそれが男性の2倍の36.8%になったことは注目に値する。将来の妊娠・出産に備えて知っておきたいという気持ちの反映ではないかと思われる。

表3 エイズ検査への対応 (括弧内は%)

No	質問項目およびその内容	全 (N=139)	男 (N=101)	女 (N=38)
10.	あなたは自分がエイズウイルスに感染しているかどうか、血液(抗体)検査を受けたいと思いますか			
1	受けたい	33 (23.7)	19 (18.8)	14 (36.8)
2	受けたくない	13 (9.4)	13 (12.9)	0 (0.0)
3	どちらでもよい	67 (48.2)	53 (52.5)	14 (36.8)
4	わからない	26 (18.7)	16 (15.8)	10 (26.3)
11.	あなたはもし検査の結果エイズウイルスに感染している(抗体が陽性)といわれたらどう思いますか			
1	特になんとも思わない	10 (7.2)	10 (10.0)	0 (0.0)
2	とても不安な気持ちになる	62 (44.9)	40 (40.0)	22 (57.9)
3	しかたないとあきらめる	27 (19.6)	23 (23.0)	4 (10.5)
4	寂しいくらい気持ちになる	10 (7.2)	7 (7.0)	3 (7.9)
5	なんともいえない	29 (21.0)	20 (20.0)	9 (23.7)
12.	感染しているといわれたとき、あなたは他の人に知らせますか			
1	家族のみ知らせる	47 (33.8)	30 (29.7)	17 (44.7)
2	ごく親しい友人のみ知らせる	6 (4.3)	4 (4.0)	2 (5.3)
3	家族、友人の両方に知らせる	32 (23.0)	23 (22.8)	9 (23.7)
4	だれにも知らせない	9 (6.5)	7 (6.9)	2 (5.3)
5	特にこだわらない	26 (18.7)	24 (23.8)	2 (5.3)
6	なんともいえない	19 (13.7)	13 (12.9)	6 (15.8)

抗体が陽性と言われたら、「とても不安な気持ち」「死にたいくらいの気持ち」になるが合わせて52.1%で不安・絶望の訴えが最も多かったが「特になんとも思わない」「しかたないとあきらめる」といった冷静な対応も26.8%あった。不安・絶望の気持ちは特に女性に強く、男性の47%にくらべ約65%にのぼった。

感染していると言われたとき、それを誰に知らせるかについては「家族にのみ知らせる」「ごく親しい友人にのみ知らせる」「家族、親しい友人の両方に知らせる」など感染者に極めて近い関係者だけに知らせるという回答が合計61%になった。この傾向は特に女性に強くみられた。

一方、男性では「特にこだわらない」とする回答も約24%あり、感染していることがわかって「特になんとも思わない、特にこだわらない」とする回答が33%あったことと併せて、エイズをあまり重大な病気とはとらえていないようであった。

表4 自分や身近な人が感染したときの対応 (括弧内は%)

No	質問項目およびその内容	全 (N=139)	男 (N=101)	女 (N=38)
13.	感染しているといわれたとき、あなたはどのような態度をとると思いますか			
1	今まで通り普通に接する	101 (72.7)	72 (71.3)	29 (76.3)
2	なるべく他人に接しないようにする	9 (6.5)	7 (6.9)	2 (5.3)
3	他人に絶対近寄らないようにする	3 (2.2)	2 (2.0)	1 (2.6)
4	わからない	26 (18.7)	20 (19.8)	6 (15.8)
14.	あなたの親戚やごく親しい人がエイズ感染者となった場合どうしますか			
1	特に接触せず普通に接する	114 (82.0)	78 (77.2)	36 (94.7)
2	なるべく近寄らない	6 (4.3)	6 (5.9)	0 (0.0)
3	絶対に近寄りたくない	2 (1.4)	2 (2.0)	0 (0.0)
4	わからない	17 (12.2)	15 (14.9)	2 (5.3)
15.	エイズウイルスの感染者が学校や職場にいたかどうか知る必要があると思いますか			
1	必要がある	31 (22.3)	26 (25.7)	5 (13.2)
2	必要がない	38 (27.3)	27 (26.7)	11 (28.9)
3	なんともいえない	70 (50.4)	48 (47.5)	22 (57.9)
16.	あなたの学校や職場でエイズウイルス感染者のプライバシーは守られると思いますか			
1	守られると思う	10 (7.2)	9 (8.9)	1 (2.6)
2	守られる場合もあるが難しいと思う	87 (63.0)	62 (62.0)	25 (65.8)
3	守られずにあきらめられると思う	25 (18.1)	16 (16.0)	9 (23.7)
4	なんともいえない	16 (11.6)	13 (13.0)	3 (7.9)
17.	あなたは両親や友人とエイズ予防について話し合いますか			
1	話し合う	29 (20.9)	16 (15.8)	13 (34.2)
2	話し合わない	28 (20.1)	26 (25.7)	2 (5.3)
3	話し合いたいと思う	49 (35.3)	35 (34.7)	14 (36.8)
4	なんともいえない	33 (23.7)	24 (23.8)	9 (23.7)

### 3. 1. 4 自分や身近な人が感染したときの対応

自分や身近な人が感染者となったときどう対応するかについては、「今まで通り、意識しないで普通に接する」という冷静な対応を回答した者が7, 8割の高率にのぼった。身近な人が感染したとき、普通に接する傾向は特に女性に顕著だった。

感染者が学校にいるかどうかを知る必要については、「不要」が「必要」をやや上回った。

エイズ感染者のプライバシーは「守られる場合もあるが難しい」「必ず漏れる」が合わせて81.1%に達し、プライバシーを守ることは非常に困難であると感じている者がほとんどだった。

両親や友人とエイズ予防について話し合うかについては、「話し合う、話し合いたい」とする回答が全体で56.2%を占めたが、この傾向は特に女性に強く男性の50.5%に対して71%を示した。

### 3. 2 エイズに関する知識

質問20項目全体の平均正答率は61.5%で、男性の平均正答率の方が女性を若干上回った。

平均正答率及び20項目中に男女間で有意差の見られた項目は1つもなかった。

〈正答率が非常に高かった項目〉

7. 軽いキスでエイズに感染しない, 9. 患者・感染者と一緒にプールで泳いでも感染しない, 11. 感染者の使用した注射針から感染する, 19. エイズウイルスに感染すると免疫力が低下する, などの知識は非常に高率で理解されていた

〈正答率がかなり高かった項目〉

17. コンドームを正しく使うことでエイズウイルスの感染は防げる, 20. エイズ患者は感染症にかかりやすいの2項目は8割以上の学生が理解していた。

〈正答率が低かった項目〉

2. エイズの病原体には2種類以上のウイルスがある, 3. エイズは遺伝しない, 4. エイズ予防に関する法律がある, 5. 日本のエイズ患者・感染者の累計では異性間感染より男性同性愛者の方が多い, 12. 日本では献血の採血時にエイズウイルスに感染しない, 13. エイズウイルス感染は血液, 母と子, 性交の3つのルートしか報告されていない, 15. エイズウイルスに感染した人は全て発病する, の7項目については半数以上の学生に理解されていなかった。

このうち, 3, 12, 13については今後, エイズは感染症であって遺伝病ではないこと, 献血時の感染や血液製剤, 輸血による感染は日本では現在起きていないことを繰り返し教育の中で指摘していかなければならない。

表5 エイズに関する知識の正答率

質問内容	正答率 (%)		
	全体	男子	女子
1. エイズウイルスは正しくはヒト免疫不全ウイルス (HIV) と呼び、エイズウイルスは俗称である	68.3	72.3	57.9
2. エイズの病原体には2種類以上のウイルスがある	41.0	44.6	31.6
3. エイズは遺伝する	39.6	34.7	52.6
4. エイズ予防に関する法律がある	29.5	31.7	23.7
5. 日本のエイズ患者・感染者の累計では異性間感染より男性同性愛者の方が多い	34.5	34.7	34.2
6. 日本のエイズ患者・感染者は外国人の女性の割合が高い	62.6	63.4	60.5
7. エイズウイルスは唾液からも検出されるが、軽いキスで感染した人はいない	86.3	83.2	94.7
8. エイズウイルスはクシやヘアブラシを共用することで感染する	71.9	72.3	71.1
9. エイズ患者・感染者と一緒にプールで泳いだりすると感染する	92.8	93.1	92.1
10. 妊婦がエイズに感染すると、おなかの赤ちゃんの5割以上がエイズに感染する	5.8	5.9	5.3
11. エイズ感染者の使用した注射針からエイズウイルスに感染する	96.4	96.0	97.4
12. 日本では献血の採血時にエイズウイルスに感染しない	48.2	51.5	39.5
13. 日本では現在血液製剤や輸血によってエイズウイルスに感染することは少ない	48.9	52.5	39.5
14. エイズウイルス感染は血液, 母と子, 性交の3つのルートしか報告されていない	66.2	62.4	76.3
15. エイズウイルスに感染した人は全て発病する	45.3	44.6	47.4
16. エイズに感染した子どもは大人より死亡率が高い	65.5	64.4	68.4
17. コンドームを正しく使うことで、エイズウイルスの感染は防げる	84.2	86.1	78.9
18. エイズ感染者の血液が手についてとき、水道水で十分に洗えばほとんど感染しない	67.6	69.3	63.2
19. エイズウイルスに感染すると、免疫力が低下する	94.2	95.0	92.1
20. エイズ患者はいろいろな感染症にかかりやすい	80.6	83.2	73.7
平均正答率	61.5	62.1	60.0

また、エイズ感染者は現状では将来ほとんど発病・死亡するが、それが十分理解されていないことが15の低値の理由であろう。むやみに恐怖感を植え付けることは正しくないが、病気の実像を正しく知らせることは大切なことである。

〈正答率が極端に低かった項目〉

10. 妊婦がエイズに感染すると、おなかの赤ちゃんの5割以上がエイズに感染する, については正答率が1割にも達せず、全く理解されていなかった。割合が正しいかどうかの問題は難しかったことが推察された。

〈その他〉

なお, 8. エイズウイルスはクシやヘアブラシの共用で感染する, のような日常生活上の注意に関する項目の正答率が7割台にとどまったことは, エイズの感染力は非常に弱くカジュアルな接触では感染しないことが, まだ十分理解されていないことによると考えられた。

### 〈参考文献〉

- 1) 今中正美, 道本千衣子, 薩田清明, 楯 博, 高橋昌巳: 大学生のエイズに関する意識及び知識調査について (第1報), 学校保健研究, 37, pp53-59, 1995
- 2) 埋忠洋一: 企業におけるエイズ対策, 保健の科学, 第34巻, 第5号, pp341-344, 1992
- 3) 薩田清明, 高橋昌巳, 楯 博: エイズに関する意識および知識について, 日本公衆衛生雑誌, 41, 7, pp658-665, 1994
- 4) 曾田研二: わが国におけるエイズ対策, 教育と医学, 7, pp26-33, 1993
- 5) 文部省体育局学校健康教育課: 学校におけるエイズ教育の推進, 文部時報, No.1394, pp48-53, 1993